

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第8号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第8号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R8 (℃)	平年差 (℃)	平年 (mm)	R8 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R8 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	30.9	2.6	33.4	38.1	4.7	24.5	26.5	2.0	29.3	0.5	1.7	35.5	50.3	141.7
	2	28.2	30.4	2.2	33.3	35.7	2.4	24.5	26.6	2.1	30.0	0.0	0.0	34.7	28.8	83.0
	3	28.0	27.6	-0.4	33.0	33.9	0.9	24.4	22.6	-1.8	32.8	0.0	0.0	32.8	50.3	153.4
	4	27.6			32.6			24.1			35.0			31.4		
	5	27.1			32.2			23.5			37.9			30.1		
	6	26.4			31.5			22.8			48.6			34.3		

○8月3半旬の平均気温は、0.4℃低く、最高気温は0.9℃高く、最低気温は1.8℃低かった。7月中旬以降まとまった降水がほとんどなく、干ばつが続いている。日照時間は平年比153.4%と多くなった。

2. 農業試験研究センター米づくり情報7号 8月13日（抜粋）

本年産水稻の生育状況（8月13日）

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年または平均との比較)
6月18日	夢しずく	本年	92.2	383	13.1	39.6	[気象] 8月6日～8月12日まで ◆平均気温…1.4℃高い ◆日照時間…長い(平年比 109%) ◆降水量…少ない(平年比 0%)
		平年	86.1	391	13.3	37.1	
		平年比(差)	107	98	(-0.2)	(+2.5)	
	ヒノヒカリ	本年	82.7	482	13.7	37.0	[生育] ◆草丈 「ひなたまる」は低く、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや高く、「夢しずく」は高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「さがびより」はやや少なく、「ヒノヒカリ」は平年並み、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」、「ひなたまる」はやや少なく、「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い。 ◆葉色(SPAD値) 「ヒヨクモチ」はやや淡く、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は平年並み、「ひなたまる」はやや濃く、「夢しずく」は濃い。
		平年	82.4	483	13.4	37.2	
		平年比(差)	100	100	(+0.3)	(-0.2)	
6月19日	ひなたまる	本年	77.8	456	13.5	38.5	
		平均(2か年)	83.7	397	14.2	40.6	
		平均比(差)	93	115	(-0.7)	(-2.1)	
	さがびより	本年	79.1	458	13.5	36.0	
		平年	78.4	481	13.6	35.8	
		平年比(差)	101	95	(-0.1)	(+0.2)	
6月19日	ヒヨクモチ	本年	74.7	847	13.8	34.2	
		平年	71.9	628	13.8	35.9	
		平年比(差)	104	135	(±0)	(-1.7)	

- 「夢しずく」は走り穂がみられ、間もなく出穂期を迎える。「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」、「さがびより」は幼穂形成期を迎えており、「ヒヨクモチ」もまもなく幼穂形成始期となる。
- 施肥管理: 登熟期の窒素不足は、背白粒・基部未熟粒や胴割粒等の発生を助長するため、穂肥診断に基づき適量の穂肥を必ず施用する。「ヒヨクモチ」や「ヒノヒカリ」専用の全量元肥肥料を使用した圃場では、幼穂形成期～穂ばらみ期頃に葉色の低下がみられる場合は追肥を施用する。
- 水管理: 早生・中生品種では、穂ばらみ期～穂揃い期まで浅水管理を行い、その後は間断灌水に切り替え、土壌を固めるとともに根の活性化を図る。晩生品種は幼穂形成期までに中干しを終了し、その後は間断灌水に切り替える。
- 病虫害防除: 農試内圃場において、紋枯病および斑点米カメムシ類の発生が確認されている。農業技術防除センターの発生予察情報や地域での発生状況を確認し、適期防除に努める。
- 病虫害に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病虫害防除部)より確認ください。
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

- 注 1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は、6 月 18 日移植の稚苗(播種期 5/25, 播種量 湿粳 180g/箱)
「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6 月 19 日移植の稚苗(播種期 5/26 播種量 湿粳 180g/箱)
- 2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm×株間 17 cm, 19.6 株/㎡(65 株/坪)
「ひなたまる」は、条間 30 cm×株間 18 cm, 18.5 株/㎡(60 株/坪)
「さがびより」は、条間 30 cm×株間 20 cm, 16.7 株/㎡(55 株/坪)
「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm×株間 15 cm, 22.2 株/㎡(73 株/坪)
- 3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
- 4)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、 $\pm 1\sigma$ の外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。
- 5)「ひなたまる」については R6 年産から試験開始のため、過去2か年の平均値との比較。
- 6)概況欄の平年値との比較については、以下のように定義している。
低い(少ない): 94 以下、やや低い(やや少ない): 95～98、平年並み: 99～101、
やや高い(やや多い): 102～105、高い(多い): 106 以上。

【幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/27(-1)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	8/4(±0)	8/4	未	8/27
ひなたまる	8/5(+2)	8/3	未	8/25
さがびより	8/8(-1)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	未	8/14	未	9/5

※8/13 現在 「さがびより」主茎幼穂長 3.0mm 程度
「ヒヨクモチ」主茎幼穂長 0.3mm 程度

3. 今後の管理

(1) 夢しずく (普通期)

○現在、出穂期から穂揃期である。

- ・幼穂形成期から穂揃期は要水量が最も多い時期である。収量低下を防ぐために、必ず湛水管理を徹底する。
- ・穂揃期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。(土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし土を固める。)

(2) 普通期水稻

○現在、生育ステージは幼穂形成期～穂ばらみ期である。

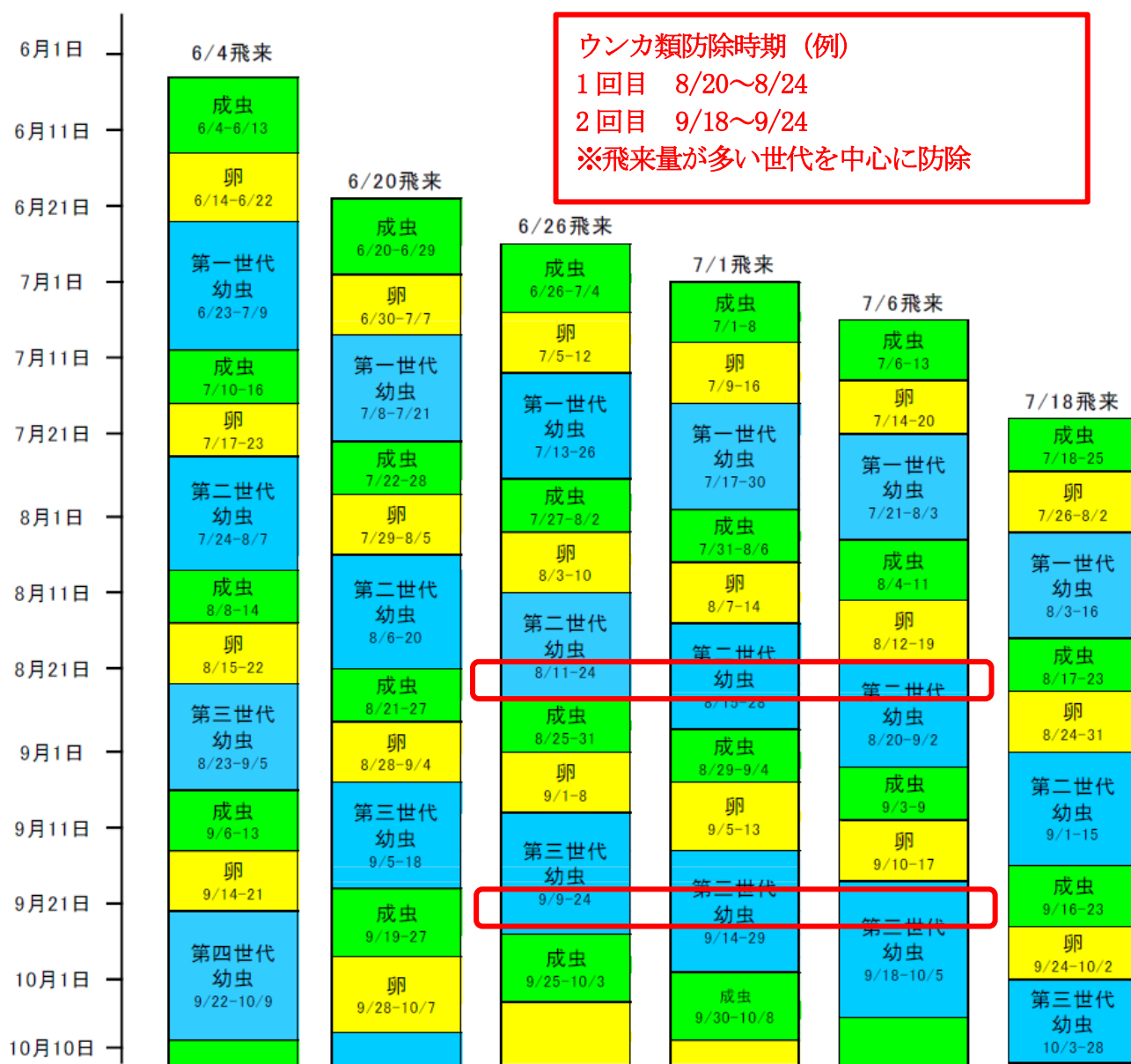
- ・幼穂形成期から穂揃期にかけて要水量が増加する時期であるので、穂揃期までは湛水管理とする。

(3) 病虫害対策

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
水稻 (早期)	紋枯病	並	  ケムシカメシ ホリカメシ   トビイロウカ コブノメイガ
	斑点米カメムシ類	多	
水稻 (山間早植え)	穂いもち	やや少	
	紋枯病	やや多	
	トビイロウカ	やや多	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	多	
水稻 (普通期)	穂いもち	やや少	
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウカ	やや多	
	コブノメイガ	多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	多	

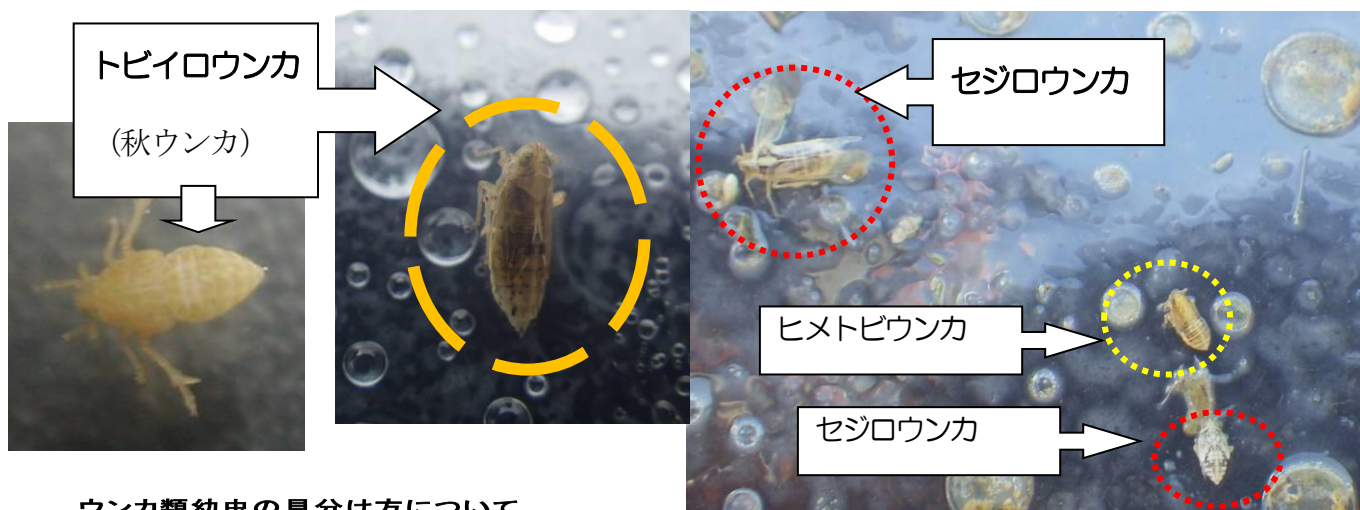
① ウンカ類

- ・6月3日～6日頃、6月17日～20日頃、6月26日～27日頃、7月1日～2日頃、7月4日～6日頃、7月16日～20日頃に飛来を確認している。まとまった飛来量が多い6月26日以降を重点的に防除する。
- ・コブノメイガは6月20日頃からまとまった飛来が確認されている。
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。



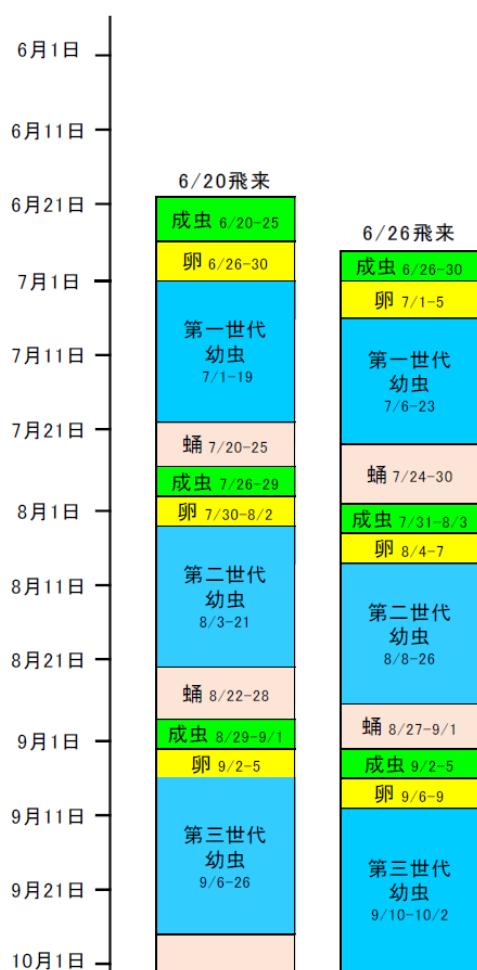
共通一図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2026年7月26日作成）

1. 6月3～6日頃（図では6月4日）、6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1～2日頃（図では7月1日）、7月4～6日頃（図では7月6日）、及び7月16～20日頃（図では7月18日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月26日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。



ウナカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウナカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビウナカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウナカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ



共通一図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2026年7月26日作成)

1. 6月20日頃、6月26日頃の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ (7月26日以降は平年値) に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。

② 斑点米カメムシ

- ・8月の発生量は、平年よりやや多い予想である。以下の点について留意する。
- ・「夢しずく」は出穂期を迎えている。斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃期（出穂後5日頃）と乳熟期の2回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合（穂揃期～乳熟期）

③ 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後、気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。
（液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする）

◎特に「ひなたまる」は紋枯病に弱く、過去には紋枯病が多発し、倒伏した事例もあるため、防除を徹底する。



紋枯病

（4）干ばつ（強風）対策

- 現在、普通期の水稲の生育ステージは、最も用水を必要とする時期であるため、常時湛水するように（少なくとも圃場が白乾しないように）こまめな用水管理に努める。

令和8年産

「夢しずく」収穫期予想積算表（アメダス観測地，白石）

※積算表は、あくまで刈取時期の目安として作成したものです。

実際の刈取時期については、必ず圃場の状況を確認したうえで判断してください。

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業振興センター

令和8年8月20日現在

単位：（℃）

月	日	平均気温						
		平年	R8	8/9	8/11	8/13	8/15	8/17
8	1	28.2	30.0					
	2	28.2	31.0					
	3	28.3	32.4					
	4	28.3	30.3					
	5	28.3	30.8					
	6	28.3	31.5					
	7	28.3	31.8					
	8	28.2	30.6					
	9	28.2	29.2	出穂期				
	10	28.2	29.1	29				
	11	28.1	27.0	56	出穂期			
	12	28.1	26.4	83	26			
	13	28.0	27.8	110	54	出穂期		
	14	28.0	28.0	138	82	28		
	15	27.9	28.6	167	111	57	出穂期	
	16	27.8	28.2	195	139	85	28	
	17	27.7	28.7	224	168	114	57	出穂期
	18	27.6	29.1	253	197	143	86	29
	19	27.5	29.2	282	226	172	115	58
	20	27.4	28.8	311	255	201	144	87
	21	27.3		338	282	228	171	114
	22	27.2		365	309	255	199	142
	23	27.1		393	336	282	226	169
	24	27.0		420	363	309	253	196
	25	26.9		446	390	336	280	223
	26	26.7		473	417	363	306	249
	27	26.6		500	444	389	333	276
	28	26.5		526	470	416	359	302
	29	26.4		553	497	442	386	329
	30	26.2		579	523	469	412	355
	31	26.1		605	549	495	438	381
9	1	26.0		631	575	521	464	407
	2	25.9		657	601	547	490	433
	3	25.7		683	626	572	516	459
	4	25.6		708	652	598	541	484
	5	25.5		734	678	623	567	510
	6	25.3		759	703	649	592	535
	7	25.2		784	728	674	617	560
	8	25.1		809	753	699	642	585
	9	24.9		834	778	724	667	610
	10	24.8		859	803	749	692	635
	11	24.6		884	827	773	717	660
	12	24.5		908	852	798	741	684
	13	24.3		932	876	822	765	709
	14	24.2		957	900	846	790	733
	15	24.0		981	924	870	814	757
	16	23.8		1,004	948	894	837	781
	17	23.6		1,028	972	918	861	804
	18	23.4		1,051	995	941	884	828
	19	23.2		1,075	1,018	964	908	851
	20	23.0		1,098	1,041	987	931	874
	21	22.8		1,120	1,064	1,010	953	897
	22	22.6		1,143	1,087	1,033	976	919
	23	22.4		1,165	1,109	1,055	998	942
	24	22.2		1,188	1,131	1,077	1,021	964
	25	22.1		1,210	1,154	1,099	1,043	986
	26	21.9		1,232	1,175	1,121	1,065	1,008
	27	21.7		1,253	1,197	1,143	1,086	1,029
	28	21.5		1,275	1,219	1,164	1,108	1,051
	29	21.4		1,296	1,240	1,186	1,129	1,072
	30	21.2		1,317	1,261	1,207	1,150	1,094

収穫適期の目安

最低 940

最高 1120

<収穫のポイント>

積算表はあくまで目安です。

気温が低く推移すれば予想より遅くなり、気温が高く推移すれば予想より早まります。

圃場での熟れ具合を確認したうえで、収穫日を決定してください。

早期落水は充実不足による「ヤセ米」や、「屑米」、「死米」が発生しやすく、品質低下の原因となりますので、必ず間断灌水を実施して、根の活力維持に努めてください。

本年の出穂期は平年並み～2日程度早まっています。

コンバイン収穫では、麦などの異種穀粒や異物が混入しないように清掃点検を行いましょう。

日中の高温条件での収穫となり、籾水分も高いので、収穫後はできるだけ速やかに通風・乾燥を行いましょう。一時堆積中の時間が長いと籾の温度が高くなりヤケ米が発生しやすくなります。穀温が高くなり、熱く感じられるときはヤケ米が発生してしまいます。

<収穫適期の目安>

◎ 穂軸の先端(穂先)から1～2cmが枯れ、穂元の青籾が 5～7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時

◎ 籾水分29%以下

収穫は、穀粒水分30%以下に低下してから始まります。籾水分27%～28%の頃が刈り取りの中心となり、気温の高い早期作では水分の低下が早く、籾水分25%未満(積算気温で1,150度以上)になると、刈遅れによる品質低下が目立ってきます。

早刈りは、玄米の充実不足による「青未熟粒」や「死米」が発生しやすくなります。「青未熟粒」が多いと食味が劣り、また収量も低下しますので、早刈りは避けましょう。



4. 大豆の管理について

○7月中旬以降干ばつが続き、生育に遅れが生じている。

(1) 干ばつ対策

- ・コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



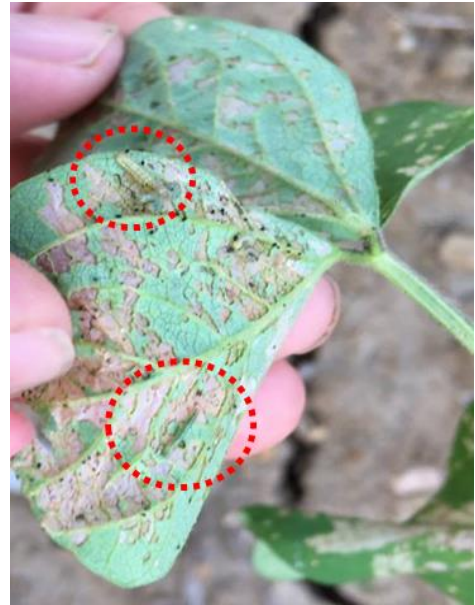
(2) 雑草対策

- ・出芽後の雑草対策としては、生育期除草剤となるので開花時期までに下記の除草剤で対策を行う。近年難防除雑草といわれる「アサガオ類」や「ホオズキ類」の発生が目立ってきている。現在干ばつの影響で発生はほとんど確認できていないが、以下に留意して適期防除につなげる。

- ① アサガオ類やホオズキ類等の難防除雑草は、圃場内の侵入を防止することが重要。見つけ次第、手で抜き取る。
- ② 難防除雑草が侵入した圃場は、土壌処理剤と茎葉処理剤を体系処理する。

(3) 病虫害防除（ハスモンヨトウ）

- ・8月中～下旬頃の白変葉が散見され始める時に1回目の防除を行い、その後は発生量に考慮して10～15日間隔で防除を行う。
- ・フェロモントラップを設置している地区やほ場においては、8月下旬～9月下旬にフェロモンによる誘殺数が増加するとほ場内の白変葉も増加する傾向がある。従って、フェロモントラップの誘殺数が急増した時に、ほ場での白変葉やハスモンヨトウの発生状況を調査して防除要否を判断する。
- ・ハスモンヨトウは1回目の適期防除を行っても、その後の追加防除はその年の気象条件やほ場によって異なる。特に、夏期が高温で経過し、大豆の生育が良好な年は、大豆白変葉の観察やフェロモントラップ調査をこまめに行い、防除が必要と判断された場合は、早急に追加防除を行う。
- ・農薬が茎葉内部及び着莢部に十分到達するように散布する。
- ・地上散布において展着剤としてササラを加用することで、調整時の泡立ちが抑えられるとともに、湿展性が向上する。



ハスモンヨトウによる白変葉

【オオタバコガ・シロイチモジヨトウ】→ 葉っぱに穴が開く

- ・高温少雨は、ハスモンヨトウと同様に多発条件である。
- ・管内でも一部、オオタバコガの発生が見られている。

令和8年産 作物作付期間気象図 アメダス観測値(白石)

